

科目ナンバリング		U-LAS04 20029 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学各論II Advanced Sociology II					担当者所属 職名・氏名		非常勤講師 朝田 佳尚		
群	人文・社会科学科目群			分野(分類)	教育・心理・社会(各論)			使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）				
開講年度・ 開講期	2025・後期		曜時限	火2		配当学年	全回生	対象学生	全学向		
[授業の概要・目的]											
テーマ「社会学理論と犯罪・非行」 本講義では、社会病理学・社会問題論の中心的な論題である犯罪・非行の学説を紹介する。その際に非行少年の育成過程や犯罪・非行に関する社会の言説の流れにも触れる。 内容としては、まず戦後における少年非行の統計を確認し、その数値や内容の変化を概観する。次に、典型的な非行の経路を検討し、それが複数の社会的排除の影響を受けていることを確認する。以上をふまえ、当該領域において「逸脱行動論」として展開されてきた犯罪・非行の諸理論を確認する。主に前半は実証主義的な対面的相互作用論を、後半は解釈主義を含んだ社会構造論を紹介し、この領域に限らず社会学一般がそうした二面性をもつことにも言及する。 本講義を通して、受講生には現代の犯罪・非行の概況だけでなく、当該分野の基礎的な視座と理論を理解してもらいたい。また、自らこの問題について考察する際の参考にしてもらいたい。											
[到達目標]											
・ 犯罪や非行に関する基礎的な知識と視座を得る。 ・ 犯罪や非行の時代的変遷が社会的な背景や社会学理論の成立と密接な関係にあることを説明できるようになる。 ・ 身近な逸脱や社会的な大事件に対する関心をもち、社会学の視座から分析の見通しをもつことができるようになる。											
[授業計画と内容]											
1. ガイダンス：授業の計画と概要 2. 少年非行統計の基礎：戦後少年非行4つの波 3. 少年非行を促すリスク要因 4. 典型的な非行の経路、小テスト 5. 「遊び型」非行と漂流・中和の技術理論 6. 社会的絆論と分化的接触理論 7. 非行的下位文化論 8. リスク要因論と犯罪に関する定義の変化 9. 二次的逸脱と社会解体論、小テスト 10. アノミー論：欲望の無限拡大 11. アノミー論：目標と手段の乖離 12. 分化的機会構造論 13. ラベリング論と社会問題の自然史 14. 環境犯罪学と批判犯罪学、小テスト 15. フィードバック											
社会学各論II(2)へ続く ↓ ↓ ↓											

社会学各論II(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

成績は、3つの小テスト（90％）と平常点（10％）によって評価する。
小テストの論題については授業中に提示する。平常点は授業内レポート（コメントフォーム）を中心に評価する。採点にあたっては、対象の独創性、分析の妥当性、内容の精密性、理論的理解の適切性など、対象と社会の関係を的確に考察する能力を評価する。

[教科書]

授業中に資料プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習に関しては、授業で取り上げる逸脱やその文化的背景に関する書籍や資料の読解、映像に触れる機会を設けておくとよい。復習に関しては、授業で紹介した現象や理論のみならず、関連する文献を幅広く読解することが望ましい。また方法論に関する回については自らの研究と照らし合わせ、授業内容の理解を深めることが求められる。

[その他（オフィスアワー等）]

適正な学習環境を確保するため、教室定員にあわせた履修制限を行うことがあります。

[主要授業科目（学部・学科名）]